

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京家政学院大学
設置者名	学校法人東京家政学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
現代生活学部	現代家政学科	-	24	0	79	103	13	-
	生活デザイン学科	-			78	102	13	-
	食物学科	-			58	82	13	-
	児童学科	-			122	146	13	-
人間栄養学部	人間栄養学科	-		0	110	135	13	-
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧（添付資料） URL：https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/06/2022jitsumu.pdf ・シラバス検索システム URL：https://kva-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx <p>※Web シラバスの「実務経験の有・無カテゴリー」に「有」を選択して検索</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 なし
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京家政学院大学
設置者名	学校法人東京家政学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

・ホームページ「役員名簿」 URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/06/0ee0d50afbfb29906d9cbdd583cac2df.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 学校法人 評議員・商議員	令和2年6月27日～令和5年6月26日	社会連携、 産学官連携(主に企業)、 情報発信
非常勤	(現職) 国立美術館 館長	令和2年6月27日～令和5年6月26日	ガバナンス、倫理、 法令遵守、産学官連携
非常勤	(現職) 学校法人 理事	令和2年6月27日～令和5年6月26日	国際交流、SD、 ダイバーシティー
非常勤	(現職) 私立大学 客員教授・参与	令和2年6月27日～令和5年6月26日	経営分析、情報公開
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京家政学院大学
設置者名	学校法人東京家政学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)については、「東京家政学院大学シラバス作成のガイドライン」を定め、各授業の授業計画の事項を具体的かつ明確に作成し、ホームページで公開している。</p> <p>(1)シラバス作成については、「東京家政学院大学シラバス作成のガイドライン」に基づき、授業担当教員が具体的かつ明確に次の項目を作成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標 ・授業の方法及び内容 ・教室外学習(準備学習)の具体的な内容 ・授業期間全体を通じた授業の進め方 ・成績評価の方法・基準 ・実務経験のある教員の教育内容 <p>(2)授業計画(シラバス)の作成過程・公開時期</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「授業計画(シラバス)作成のガイドライン」を検討し、決定する。 ②全授業担当教員に授業計画(シラバス)の作成を依頼する。 ③全てのシラバス科目について第三者チェックを行う。 ④ホームページのシラバス検索システムで公表(公表時期4月)。 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成のガイドライン公表 URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2019/05/2019guideline.pdf ・シラバス検索システム(各学部・学科のシラバス公表) URL : https://kva-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx ※Webシラバスの開設学科カテゴリーに、開設学科・学年を入力して検索 ・学生便覧(刊行物) URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/gauseibinran2022.pdf

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業科目においては、学習目標(到達目標)、試験やレポートの内容、学習意欲などを、あらかじめ授業計画(シラバス)の評価方法・評価基準で明らかにし、単位を与え、履修を認定している。</p> <p>(1)授業計画(シラバス)の評価方法・評価基準 評価方法については、具体的な評価方法と基準を記述欄に記載している。 また、評価基準のマトリクスの表中に、授業で評価する方法(定期試験、レポート、学習意欲等)を挙げ、どの学習目標(到達目標)について評価するかを「○」で明らかに示している。 ※授業計画(シラバス)の評価方法・評価基準を参照 参照例URL:https://kva-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=H02024031&P2=2022&P3=20220403</p> <p>(2)授業計画(シラバス)の学習目標とディプロマポリシーとの関連 学習目標(到達目標)を4つの観点(知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技術・表現)で、学生が授業を終了した段階でどのような力が身につくか、できるようになるかを学生に示し、ディプロマポリシーと関連付けさせている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生便覧に GPA の成績評価に係る客観的指標の算定方法を定め、ホームページに公表している。また、学部・学年別に客観的指標に基づく成績の分布状況を適切に作成し、学生の成績の相対的な位置を把握するよう努めている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ GPA等の客観的な指標 (成績評価制度等について) の公表 URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/r3_gap.pdf ・ 客観的な指標に基づく成績の分布の作成 (添付資料)

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>大学や学部等の教育理念に基づき、社会におけるニーズを踏まえ、卒業の認定に関する基本的な方針を定め、ホームページに公表するとともに、適切に実施している。</p> <p>(1) 卒業認定の方針を次のとおり定めている。</p> <p>◎東京家政学院大学ディプロマポリシー</p> <p>○現代生活学部ディプロマポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代生活学部現代家政学科ディプロマポリシー ・現代生活学部生活デザイン学科ディプロマポリシー ・現代生活学部食物学科ディプロマポリシー ・現代生活学部児童学科ディプロマポリシー <p>○人間栄養学部ディプロマポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間栄養学部人間栄養学科ディプロマポリシー <p>(2) 卒業認定に関する方針の適切な実施状況</p> <p>○卒業要件単位数を次のとおり定め、卒業判定している。</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/2022GPA.pdf</p> <p>○卒業の認定については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。 (学生便覧掲載 学則第41条～第42条)</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/syllabus.html</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>◎東京家政学院大学ディプロマポリシー</p> <p>○現代生活学部ディプロマポリシー</p> <p>○人間栄養学部ディプロマポリシー</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html</p> <p>・現代生活学部現代家政学科ディプロマポリシー</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/faculty/modern_home_economics/policy.html</p> <p>・現代生活学部生活デザイン学科ディプロマポリシー</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/faculty/human_life2018/policy.html</p> <p>・現代生活学部食物学科ディプロマポリシー</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/faculty/food_and_nutrition/policy.html</p> <p>・現代生活学部児童学科ディプロマポリシー</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/faculty/child_studies/policy.html</p> <p>・人間栄養学部人間栄養学科ディプロマポリシー</p> <p>URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/faculty/human_and_nutrition/policy.html</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京家政学院大学
設置者名	学校法人東京家政学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・令和3年度 貸借対照表 URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/06/78f4c3e1013bb8d11f8f56c9eff57f29.pdf
収支計算書又は損益計算書	・令和3年度 資金収支計算書 URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/05/353d015de51741c7bdda546803e86dbb-1.pdf
財産目録	・令和3年度 財産目録 URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/05/c0ce3a474e0e98e04b63c10fc7d85d55.pdf
事業報告書	・令和3年度 事業報告書 URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/05/8eee9047ecab96e3e93dfb64864c42bd.pdf
監事による監査報告(書)	監事監査報告書 URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/05/290980d2033c00a295bbf664d719fb85.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 令和4年度 事業計画書 対象年度: 令和4年度)
公表方法: URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2022/04/bc57d0b6ac3eec9c08eb4101bf1a1c1a.pdf
中長期計画(名称: 中期計画 対象年度: 令和元年度~令和5年度)
公表方法: URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/wp-content/uploads/2020/09/chukikeikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/autocriticism.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/information/evaluation/kasei
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代生活学部
教育研究上の目的 (公表方法: URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/indicator.html)
(概要) 現代生活学部は、知、徳、技のバランスを重視する建学の精神に基づき、生活者の視点から、家政(衣、食、住、家族、消費)、教育(初等教育、幼児教育、保育)、福祉を中心的な分野として教育・研究を行い、個人・家庭・地域の暮らしはもとより、地球規模の問題解決にまで貢献できる人材を育成し、社会に送り出すことを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: URL: https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html)
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・学部、学科での学習を通じ、生活者視点で人間らしい社会の創造に貢献するための実践力を体得する ・学部、学科において決められた年限を学び、必要な単位数を修得する ・修得すべき科目には、各学科の考えの下、講義科目に加え、フィールドワーク、演習や実習、卒業研究がある ・全学共通の共通教育科目、各学科の特性に応じた専門科目、資格科目を通じ十分な教養と専門性を獲得している
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html)
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に不可欠で、専門科目を学ぶ上での土台となる基礎的教養・考察力を身に付け、豊かな人間性を涵養する目的で全学共通の「共通教育科目」を置く ・高度な専門的知識と技術を体系的に学ぶ目的で、学科専門科目を置く ・専門科目を社会で活かすために、特定の資格を得るに必要な資格科目を置く ・専門として修得した知識や技術を用いて、社会に新しい価値を創りだす目的で 3 年次より卒業研究・演習(ゼミナール)を置く
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html)
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・家族、友人だけではなく、社会的背景や身体能力、地域や民族、国を超えた他者への共感を持てる人 ・身近な生活に目を向け、課題を発見し、課題の解決に向かって他者との協働を進めたい人 ・学ぶことに意欲があり、理念や構想を技術によって具体的な「かたち」に示し、実行したい人 ・人間として、女性としての生き方、働き方に関心を持って学習し、未来を新しくかたち創っていきいたい人 ・現代生活学部で学んだことを活かし、生活者視点で新しい、人間らしい社会の創造に貢献したい人
学部等名:人間栄養学部
教育研究上の目的 (公表方法: URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/indicator.html)

<p>(概要)</p> <p>人間栄養学部は、知、徳、技のバランスを重視する建学の精神に基づき、「人々の生活の質 (quality of life) を豊かにするために、人間、食物、そして地域・環境の相互関係から『人間の栄養』を学際的な視野で包括的に探究し、乳幼児から高齢者にいたるさまざまな人々の望ましい栄養・食生活が創造できる科学的素養を備えた人材を育成し、社会に送り出すことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法:URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的なカリキュラムの履修により、人間、食物、そして地域との相互関係から「人間の栄養」を理解できる専門的知識と、それらを地域社会で応用・実践できる総合的な知識基盤を身につけている ・管理栄養士等の専門職業人として、自己理解と他者理解につながる幅広い教養を身につけている ・学際的な学習を通じて、個人から地域コミュニティ、グローバルな観点から現代の食・栄養に関わる諸課題について探求し、その課題解決に向けて正確な情報を収集して論理的批判的に思考し、優先的な健康・栄養課題に対する戦略的な取り組みを判断できる力を身につけている ・「人間の栄養」に関心を持ち、管理栄養士として社会に貢献しようとする意思と、他者と協働するための共感力、生涯にわたって主体的に学ぶ意欲と態度、豊かな人間性を身につけている ・体系的学習を通じて、人々の生活の質の向上に寄与すべく、健康の保持増進のための栄養管理と栄養指導に関する専門的スキルと共に、他職種とのコミュニケーション能力やマネジメント、プレゼンテーション力などの表現力を身につけている
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広範で多様な基礎的知識と基本的学修能力を身につけるため、共通教育科目として、アカデミックスキル群、教養科目群、キャリアデザイン科目群を配置する ・教育・研究の方法として、人間、食物、そして地域との相互関係について、遺伝子レベル、組織・細胞レベル、生体・生理レベル、行動・活動レベル、地域レベル等の各レベルからアプローチし、人文科学・社会科学・自然科学の学際的な視点で「人間の栄養」を教育研究し、総合的に分析・理解できるカリキュラムを編成する ・管理栄養士に必要な知識と技術を段階的に修得できるよう、専門科目には、管理栄養士としての職業倫理を培い、動機づけにつなげる専門導入科目群、管理栄養士国家資格の必修科目にあたる専門基礎科目群・専門基幹科目群、さらに、卒業後の進路に向けた専門発展科目群を体系的に配置する ・専門発展科目群は、管理栄養士の主たる活動分野である「臨床栄養」「食育・地域栄養ケア」「スポーツ栄養」「フードサービス」の4つの系統を配置する ・学生自らが将来の進路先を見つけ出すことができるよう、早期から実践現場で知識・技術等を修得できる体験学習プログラムを展開する ・学外での実習科目として、1年次の「管理栄養士基礎演習」、2年次の「栄養プロデュース実習」、3年次の「臨地実習」、3年次・4年次のゼミナールとして問題発見・課題解決志向学習である「実践栄養プロデュース実習」を配置する ・栄養管理に関わるコンピテンシーを自ら計画的に修得するため、PBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)、アクティブ・ラーニングを導入した学内外の実験・実習科目を配置し、実践力・応用力を養う ・数量的に把握できる方法として、GPA、管理栄養士国家試験、就職により学修の到達度を評価する ・質的に把握できる方法として、学内外での実験・実習への積極性や企画立案力等々により学修のプロセスを評価する

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校で履修した教科の基礎学力を十分に身につけている人 ・管理栄養士として、食・栄養・健康に関する知識を身につけたい人 ・生命の大切さを理解し、健康と福祉のために役立ちたいという意欲と情熱を持つ人 ・「人間の栄養」に目を向け、社会的課題への好奇心と探究心があり、管理栄養士として社会で活躍したい人 ・「人間の栄養」に関する専門的スキルと表現力を身につけたい人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/04/1f76712d64c50979dd2dbdf03dae16f8.pdf</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
現代生活学部	—	23人	30人	0人	8人	3人	64人
人間栄養学部	—	9人	7人	1人	4人	3人	24人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		156人				156人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kasei-gakuin.ac.jp/houjin/information/educationkasei1_2/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>教育研究水準の向上を図り、大学学則第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動などの状況について自己点検・評価を行っている。この自己点検・評価活動行う中で、教員が主体的に行う授業改善に資する活動を積極的に推進するために、東京家政学院大学教育改善（FD）委員会（以下「FD委員会」という。）が中心となり、次の企画・推進を図っている。</p> <p>FD委員では、授業改善に資することを目的に教育方法の研究・工夫を積極的に推進するための活動として、教員が担当する授業科目のうち、当該教員が指定した授業科目について、学生による授業評価アンケートを実施し、その結果をフィードバックしている。また、教員は、評価結果に基づき、自己評価及び教育研究方法の改善方策の研究・工夫を報告書として提出を義務づけている。</p> <p>①授業評価アンケート調査の全体の評価結果をホームページに公開し、共通教育・専門・資格科目別に教員の評価結果を電子掲示板（デジタルサイネージ）に公開している。大学院については、授業評価アンケートの代わりに、研究科長が院生との意見交換を行い、その内容についてFD委員会で報告している。</p> <p>②公開授業については、授業評価アンケートデータから、満足度の高い授業を参考とすべき公開授業として選び、教員相互の授業改善に役立てている。</p> <p>③教育内容等の改善活動の活性化を図ることを目的として、学外から講師の招聘等を行って「FD・SD講演会」を実施している。</p> <p>また、学科会議を中心に、ディプロマポリシーを基軸に、学生のニーズや社会的ニーズに合った教育内容の改善に努めており、関係の委員会やセンターによる課題の整理や日常の活動の見直しを行っている。</p>							

さらに、加盟する大学コンソーシアム八王子の大学等連携部会 FD・SD 専門委員会の委員として、教職員の教育力向上とともに、地域社会や全国の教育機関関係者などの交流や総合理解を目的とした諸活動に携わっている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代生活学部	370 人	200 人	54.1%	1,520 人	1,043 人	68.6%	20 人	10 人
人間栄養学部	140 人	148 人	105.7%	560 人	566 人	101.1%	0 人	2 人
合計	510 人	348 人	68.2%	2,080 人	1,611 人	77.5%	20 人	12 人

(備考) 人間栄養学部の編入学は補欠募集

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代生活学部	278 人 (100%)	3 人 (1.1%)	230 人 (82.7%)	45 人 (16.1%)
人間栄養学部	140 人 (100%)	2 人 (1.4%)	124 人 (88.6%)	14 人 (10%)
合計	418 人 (100%)	5 人 (1.2%)	354 人 (84.7%)	59 人 (14.1%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
 エームサービス株式会社、株式会社 LEOC、株式会社グリーンハウス、IMS グループ、株式会社ベネミール、富士産業株式会社、株式会社マーキュリー、日清医療食品株式会社、株式会社ベネッセスタイルケア、株式会社アスモフードサービス、シダックス株式会社、株式会社サンドラッグ、社会福祉法人東京児童協会、株式会社こどもの森、タイヘイ株式会社、サミット株式会社、横浜市教育委員会、タマホーム株式会社、社会福祉法人厚生館福祉会、コンパスグループ・ジャパン株式会社

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
現代生活学部	317 人 (100%)	267 人 (84.2%)	11 人 (3.5%)	39 人 (12.3%)	0 人 (0%)
人間栄養学部	146 人 (100%)	139 人 (95.2%)	2 人 (1.4%)	2 人 (1.4%)	3 人 (2.0%)
合計	463 人 (100%)	406 人 (87.7%)	13 人 (2.8%)	41 人 (8.9%)	3 人 (0.6%)

(備考) 人間栄養学部のその他は転学部

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業計画(シラバス)については、「東京家政学院大学シラバス作成のガイドライン」を定め、各授業の授業計画の事項を具体的かつ明確に作成し、ホームページで公開している。

(1)シラバス作成については、「東京家政学院大学シラバス作成のガイドライン」に基づき、授業担当教員が具体的かつ明確に作成している。

○シラバス作成のガイドライン公表 URL : <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2019/05/2019guideline.pdf>

- ・到達目標
- ・授業の方法及び内容
- ・教室外学習(準備学習)の具体的な内容
- ・授業期間全体を通じた授業の進め方
- ・成績評価の方法・基準
- ・実務経験のある教員の教育内容

(2)授業計画(シラバス)の作成過程・公開時期

○シラバス公表 URL : https://kva-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

①「授業計画(シラバス)作成のガイドライン」を検討し、決定する。

②全授業担当教員に授業計画(シラバス)の作成を依頼する。

③全ての科目について第三者チェックを行う。

④ホームページのシラバス検索システムで公表(公表時期4月)。

(3)学生便覧(刊行物) URL : <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/syllabus.html>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

○単位の認定の方針について

参照例 URL : https://kva-web.campusplan.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusSansho/UI/WSL_SyllabusSansho.aspx?P1=H02024031&P2=2022&P3=20220403

評価方法・評価基準については、具体的な評価方法・基準を記述欄に記載している。

また、評価方法・評価基準のマトリクスの表中に、授業で評価する方法(定期試験、レポート、学習意欲等)を挙げ、どの学習目標(到達目標)について評価するかを「○」で明らかに示している(※授業計画(シラバス)の評価方法・評価基準を参照)。

○成績評価制度等について URL : <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2021/06/2021GPA.pdf>

○年間履修登録単位の上限(CAP制):現代生活学部44単位、人間栄養学部46単位
(学生便覧PP.113-114 履修規程第8条～第9条)

URL : <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/gauseibinran2022.pdf>

○卒業の認定については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定している。
(学生便覧P.22 学則第21条～第22条)

URL : <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/gauseibinran2022.pdf>

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代生活	現代家政	124 単位	有	44 単位
	生活デザイン	124 単位	有	44 単位
	食物	124 単位	有	44 単位
	児童	124 単位	有	44 単位
人間栄養	人間栄養	130 単位	有	46 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/gauseibinran2022.pdf GPAの活用状況としては、実習参加(派遣)のGPA基準を定め、活用している。 学生便覧・教育実習参加(派遣)基準 P.151 学生便覧・保育実習参加基準 P.165		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法： 2021年度前期URL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/news/data/27227.html 前期PDFURL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2021/12/e4319701a938e2a130305ca9f757ee7c.pdf 2021年度後期PDFURL https://www.kasei-gakuin.ac.jp/wp-tkg-u/wp-content/uploads/2022/05/r3_late_totalling.pdf 本学におけるFD活動の一環として、学生が授業について、どのように感じているかを把握し、その結果を教員が今後の授業改善に役立てることを目的として「学生による授業評価アンケート」を実施し、公表している。		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：ホームページで公表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○千代田三番町キャンパスの概要(運動施設、休息を行う環境その他の学習環境) URL:https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/re_chiyoda.html ○町田キャンパスの概要(運動施設、休息を行う環境その他の学習環境) URL:https://www.kasei-gakuin.ac.jp/guide/re_machida.html ○両キャンパスの主な交通手段等の状況 URL:https://www.kasei-gakuin.ac.jp/site/access.html
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代生活	現代家政・ 生活デザイン	770,000 円	250,000 円	310,000 円	その他の内訳：施設設備資金 310,000 円
	食物	770,000 円	250,000 円	346,000 円	その他の内訳：施設設備資金 310,000 円、実習料 36,000 円
	児童	770,000 円	250,000 円	310,000 円	その他の内訳：施設設備資金 310,000 円
人間栄養	人間栄養	790,000 円	250,000 円	430,000 円	その他の内訳：施設設備資金 350,000 円、実習料 80,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生への学修支援は、教員と職員からなる学習支援室、授業担当教員、クラス担任、事務局の学務室などが主に行っている。また、附属図書館でも「レポートの書き方」などの指導を行うなど、全学をあげた体制で対応している。</p> <p>総合型選抜および学校推薦型選抜で合格した生徒全員に対し、及びその他の入試形態の合格者には任意で、大学入学までの期間、継続的な学習習慣の維持及び基礎学力の確認を目的に入学前準備教育を実施している。入学予定学科の教育内容の基礎となる科目を復習することで、入学後の高校から大学への学びにスムーズに適応できるようにしている。またその学習状況について個人カルテを作成している。</p> <p>学習支援室の取り組みでは、上級生が入学した新入生に対して、時間割表の作り方などの履修計画をアドバイスするシステム（前期／後期履修登録サポート制度）を実施している。令和3年度は1年ぶりに対面でのサポートを行った。</p> <p>授業担当教員は、授業や学業に関することに加えて、学生生活や進路に関して学生が相談できるようにオフィスアワー（週1回1コマ以上）を設けている。シラバス上の記載や学内の掲示板に全教員のオフィスアワーを掲示することで、授業担当教員や所属学科の教員だけでなく、全教員を訪ねることも可能にしている。</p> <p>クラス担任は学生面談を通して、授業についていけない学生に対する学修支援、学業への取組みの向上を図っている。1年と3年に対してアセスメントテストを実施し、その結果を参考に面談ができるようにしている。今後は入学前準備教育、1年、3年のアセスメントテストの結果を横断的に把握して学生指導につなげたい。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>進路選択に係る支援については、両キャンパスの就職支援室とキャリア支援室が担当している。</p> <p>就職支援活動は、「学年別の就職ガイダンス」、「キャリア支援講座」、「就職支援講座」、「ネット就職支援システム」、「個別支援（就職相談）」、「資格・就職試験対策講座」などを行っている。</p> <p>1年生のための「就職ガイダンス」では、大学生活の過ごし方や将来のビジョンを描かせ、学生時代に何をすべきかを考えさせる機会として位置付けている。</p> <p>2年生には、進路意識の向上を図ることを目的として「キャリア支援講座」を展開し、女性の雇用の現実と問題点などグループワークを通して理解させ、組織の一員として客観的・論理的に発言をする重要性を学ばせている。</p> <p>3年生には、「就職支援講座」として、自己分析、業界研究、就職マナー・メイク、履歴書・エントリーシートの書き方、面接対策など就職試験本番に備えた就職活動対策を実践している。また、3年生を対象に栄養士保育士などの職種に焦点を絞った「専門職講座」も演習形式で展開している。</p> <p>4年生には、「求人情報NAVI（就職支援システム）」を利用して、学生の自宅パソコンや携帯電話（スマートフォン）に向けて、大学に寄せられた求人情報をスピーディーに発信している。コンテンツには求人情報、就職相談受付、インターンシップ情報、先輩方の就職活動体験記、就職支援室からのお知らせ、カレンダー機能などがあり、卒業生も利用することができる。</p> <p>資格・就職試験対策講座は、学年を問わずに受講できる体制をとっている。例年、試験対策講座は、主に公務員、教員採用などを開講している。令和3(2021)年度は、TALK食空間コーディネーター資格、秘書検定、宅地建物取引士試験対策講座を開講し、資格対策以外にも、基礎学力を重視したSPI試験対策、就職常識試験対策も実施した。コロナ禍のためオンラインを活用しての講座となった。</p> <p>このような教育課程外の様々な資格・試験対策講座は、学生の主体的な学習力を養い、自己実現に向けたキャリアプランに役立っている。</p> <p>各学科においては、学科別に就職懇談会を開催している。懇談会は、就職支援室の主催の</p>

もと、各学科の就職支援員がキャリア支援室と連携して行っており、第一線の現場で活躍する卒業生から、企業や施設の現状と就職活動体験を学ぶ場であり、働く女性の身近なキャリアモデルとして、実践的なアドバイスを得る機会でもある。学生においては、就職意欲を向上させる場となっている。

また、大学全体としては、「学内企業研究会」「公務員説明会」を開催している。学内で企業及び官公庁省の人事採用者から各団体の特徴や採用試験の内容等を聞き、企業研究を行う場であり、外部で開催される合同説明会よりもじっくり話を聞くことができるため、就職活動の準備に役立っている。本学はキャンパスが二カ所あるが、令和3年度はオンラインでの開催とし、両方のキャンパスの学生が参加した。

就職支援室の相談・助言体制としては、キャリア支援室が中心となり、ハローワークなどの外部機関と連携を取りながら就職相談業務を行っている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

保健管理センターにおいて学生からの相談等に対応している。保健管理センターは、「東京家政学院大学保健管理センター規程」に基づき、本学における保健管理に関する業務を一体的に行うことで、学生の心身の健康の保持増進を図っている。

保健管理センターは保健室と学生相談室から構成され、身体的な支援は主に保健室、メンタルに関する支援は主に学生相談室で行っており、両室は連携しながら学生への支援を行っている。

保健室・学生相談室とも利用者のプライバシーに十分配慮して運営しており、その年間計画や運営については「保健管理センター会議」「保健管理委員会」「学生相談委員会」を設け、審議している。

保健室では学校医が定期的に出校して勤務にあたる他、常駐の看護師が障害や持病、突発的な傷病、健康・保健相談の対応、定期健康診断の実施を行った。令和2(2020)年度は受診率93.3%、令和3(2021)年度は97.6%であった。結果について疑義のある学生については保健室に呼び出し、学校医との面談を行い、必要に応じて専門医療機関への受診を勧めている。その他、入学予定者に予防接種受診を奨励する案内状を送付し、積極的な予防対策を実施している。

学生相談室では学内の教員が相談員として学生の悩みに向き合っており、より専門的な対応については週2回のカウンセラー、月に1回の精神科医による相談が利用されている。学内の学生相談委員においては、日常の学生の変化を察知し、問題を抱える学生に対しては研究室で相談業務を行っており、悩みが深刻で専門的支援が必要とみなされた場合は、専門職カウンセラーへの橋渡しを行っている。近年の学生の多様化により、相談内容も広範囲で複雑な悩みを抱える相談者が増えつつあるため、学生相談室の果たす役割は重要である。またコロナ禍における学生の不安に向き合ったため令和2年度から電話相談の体制を整え、現在も継続している。令和2(2020)年度の相談者数は49名、令和3年(2021)年度は57名であった。

このような学生の事情を鑑み、学生相談委員会では、悩みや不安を抱える学生に学生相談室が身近な存在となれるよう、年2回の機関誌の発行、『学生相談報告書 第8号』（令和4年3月）の刊行を行った。令和3年度は「フリースペース」（学生が気軽に立ち寄れる部屋、期間限定）がキャンパスごとに実施され、これに加えて、コロナ禍における新たな学生への支援として、「KVAトークルーム」の実施もできた。オンラインでキャンパスを超えて学生同士をつなぐ取り組みとして、今後も継続して実施する。

このように本学では、学生に対する健康相談、心的支援、生活相談などを適切に行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページで公表

○地域連携活動紹介

URL：https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/area_info.html

○地域連携事例集

URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/area_news.html

○海外協定校との交流

URL : https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/community_plan.html

○学術情報発信

URL : <https://www.kasei-gakuin.ac.jp/action/learning.html>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F113310103260
学校名	東京家政学院大学
設置者名	学校法人東京家政学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		145人	138人	154人
内 訳	第Ⅰ区分	73人	80人	
	第Ⅱ区分	50人	32人	
	第Ⅲ区分	22人	26人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				156人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	11人		
計	13人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	-	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	30人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-		
計	31人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。